

京都創生

KYOTO SOUSEI

第19号



日本の財産である京都を守り、育て、未来へ

本誌は、京都創生推進フォーラムの会員の皆様をはじめ、市民の皆様による京都創生の実現に向けた取組を応援する広報誌です。

文化庁の京都移転準備が進んでいます！

～ 2021年度中に移転予定 ～



第5回文化庁移転協議会(平成30年8月7日)
(左から、門川市長、梶山まち・ひと・しごと創生担当大臣、林文部科学大臣、西脇知事)
※ 肩書はいずれも当時

本格移転先庁舎の整備規模、役割分担等が決定

文化庁の京都移転については、平成29年4月に先行移転として「地域文化創生本部」が設置され、同年7月には「第4回文化庁移転協議会」において、本格移転における組織体制の大枠、移転場所及び移転時期等が決定しました。

さらに、平成30年8月に開催された「第5回文化庁移転協議会」において、本格移転先庁舎の整備規模、整備に係る役割分担等が決定しました。

2021年度中の移転に向けた取組が着実に進んでいます。

祝 文化庁創立50周年 京都移転に先立ち「新・文化庁」スタート

縦割りを超えた、開放的かつ機動的な文化政策集団へ 抜本的な組織改革！

平成30年、創立50周年の節目を迎えた文化庁は、京都への全面的な移転に向け、抜本的な組織改革、機能強化を図り、10月1日から文化政策を総合的に推進するための司令塔となる「新・文化庁」としてスタートしています。

京都としても、「新・文化庁」との連携の下、文化による日本の地方創生を力強く前進させてまいります。



文化庁創立50周年記念パレード(平成30年9月29日)



文化庁

Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

文化庁創立50周年を機に新たなシンボルマーク制定

円型と伝統的な市松模様の組合せにより、多様な文化芸術の様相を表現しています。二種類の円の重なり合いが、文化芸術の無限の可能性も感じさせます。「文化庁」の文字は、宮田文化庁長官が揮毫しました。

京都創生推進フォーラムは、「国家戦略としての京都創生」の趣旨に賛同する団体、企業、市民が集まり、その実現に向けて自ら取り組み、相互に協力し、活動の輪を広げることで、京都から広く国内外に京都創生の機運を高めていくことを目指しています。

シンポジウム 京都創生推進フォーラム

当フォーラムと京都市では、京都創生の実現に向けた市民の皆さんによる自主的な活動を推進するために、シンポジウムを開催しています。

今年は、オープニングで、杵屋勝七郎氏、杵屋寿哉氏による長唄三味線組曲をご披露いただいた後、「京都のまちとアートの未来」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

日時 平成30年7月27日(金) 13:30～16:00

会場 ロームシアター京都「サウスホール」



長唄三味線組曲

パネルディスカッション 「京都のまちとアートの未来」

◎コーディネーター

■宗田 好史 氏 (京都府立府大学副学長)

私たちは京都創生を少しずつ実現してきて、文化が今新しく変わろうとしています。昨年、二条城をはじめとする市内各所にて、アジア回廊現代美術展が開催されました。アートが持つ力、京都のまちとアートの未来について考えたいと思います。



宗田 好史 氏

◎パネリスト

■建島 哲 氏 (美術評論家・詩人)

京都は歴史的、文化的であると同時に前衛的なアートの運動が盛んなまちでもあります。その両極面を重ねられないかということでアジア回廊が始まりました。

本来、美術館というのは無個性な空間に個性的な作品を展示するのが一般的ですが、アジア回廊では「祝祭性」をテーマに、オーラのある空間に現代美術を介させました。



建島 哲 氏

■やなぎ みわ 氏 (美術作家・舞台演出家)

京都は歴史が深いまちなので全ては何かの跡地であるということが、体感ですごくわかります。祝祭には、何かの跡地の失われた声を一瞬甦らせる役割があると思います。



やなぎ みわ 氏

■長谷川 祐子 氏 (東京藝術大学大学院教授・東京都現代美術館参事)

新しいものと古いものが、無理なく共存できるまちと言うのは度量があります。歴史的なゆとりがあるほど、新しいものを受け入れていく余裕があり、生活の美意識が高いわけです。日本人、中でも特に京都の人は意識が高いと思います。



長谷川 祐子 氏

■並木 誠士 氏 (京都工芸繊維大学大学院教授・同美術工芸資料館館長)

二条城での企画は刺激的でしたが、常時でなくてよいのです。年1回だけそうしたものを発信できる場が必要なのです。そうすることで、意外性と刺激のあるまちになるのだと思います。



並木 誠士 氏

■建島 氏

アートは大変平和的で建設的な力です。アジア回廊は一過性のイベントだったから許される歴史の読み替え・新しいビジョンの提出でした。日本・京都では、こうした試みを同時に多面的に進めていくということが、スリリングな課題として将来につながっていくのだと思います。

■やなぎ 氏

アートは個人的なものからグローバルなものまで幅広いですが、「アートの力」というのは個人の力です。

京都のように重層な歴史のあるまちだからこそ、アーティストが一人ひとり関わっていくことで、豊饒なカルチャーが生まれるのです。

■長谷川 氏

アートそのものだけではなく、その後ろにある様々な期待みたいなものが、「市（いち）」となって交流していくことで個々が活性化します。国際展覧会が、ファインアート以外も含んでいけば、生を支える文化の在り処としての個々の活性化を支える唯一の場所としての京都、というイメージを見せつけていくのだと思います。

■並木 氏

比喩的に言えば、京都はどこをどのくらい掘るかによって、出てくるものが違うわけです。アーティストが京都の各所で面白い穴を掘り、そこから出てくる物語をうまく作品にしてもらおうと、アートを介したまちの活性化が出来るので、それを期待したいです。

■宗田 氏

京都創生は「守る、継承する」から「新しく生み出せるか」を議論する時期に来ているのだと思います。19世紀以降のパリでは世界中のアーティストが集り、国際的な活動があった。その後、国境の無いEUができたように、若いアーティストが京都に集り、アートと文化の交流によって京都を活性化することは着実に京都創生を進めていくということだと思います。

京都創生PRポスター「日本に、京都があつてよかった。」第31弾が登場!

当フォーラムと京都市では、京都創生PRポスター「日本に、京都があつてよかった。」を発行しており、第31弾のテーマは「世界文化自由都市宣言40周年」です。

全世界のひとびとが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに自由につどい、自由な文化交流を行う都市の実現を目指した世界文化自由都市宣言から40年。

この理念を体現するミュージアムとして、2006年に「京都国際マンガミュージアム」がオープン。日本が世界に誇るマンガ・アニメの文化交流拠点としての役割を担います。

このポスターを多くの方にご覧いただき、改めて、京都がもつ歴史的・文化的資産の素晴らしさを再認識していただくとともに、かけがえのない文化を守り、育て、未来に伝えていく機運を高めていきたいと考えています。



イベントカレンダー

京都創生推進フォーラム会員が実施する催し等をご紹介します。

京都創生推進フォーラムのホームページでも、当会員が実施する催しを紹介しています。
(アドレス <http://www.kyoto-sousei.jp/>)

事業名	概要	開催期間	会場(住所)	料金	申込	主催者等
人形劇団京芸 第54回お正月公演	大型新作人形劇「とどろけ 淵のメッケ」を上演。カッ パの大冒険!	1/14(月・祝) (計1日間) ①11:00~12:15 ②14:00~15:15	京都府立文化芸術会館 (京都市上京区河原町通 広小路下る東桜町1)	大人 3,000円 小児 (3歳~小学生) 2,000円	不要	有限会社人形劇団京芸 (0774-21-4080)
伏見稲荷大社	稲荷大神が始めて稲荷山 に鎮座された和銅四年二 月初午に因む祭	2/2(土) 終日	伏見稲荷大社 (京都市伏見区深草藪ノ内 町68)	無料	不要	伏見稲荷大社 (075-641-7331: 宣揚部)
京都伝統工芸大学校 卒業修了制作展	学生の卒業・修了制作作 品(約200点)を展示 いたします。	2/8(土)~ 2/17(日) (計10日間) 10:00~18:00 (最終入館:17:30)	京都伝統工芸館 (京都市中京区烏丸三条 上ル)	無料	不要	京都伝統工芸大学校 (075-229-1010) (一財)京都伝統工芸 産業支援センター (0771-63-1751)

○各事業の詳細は、主催者等へお問い合わせください。

○内容は、予告なく変更されることがありますのでご了承ください。

